


第 277 回 都市懇サロン レポート	「コミュニティサロン カフェ 06 をプロデュースする～お客様とスタッフと空間が醸し出す何気ない居心地の居場所づくり～」		
講 師	カフェ 06 推進委員会 コアメンバー・プロデューサー 菊池 清美さん	開 催 日	令和 6 年 2 月 13 日(火) 18:00～20:00
講 師 プロフィール	1984 年 筑波大学大学院理工学研究科理工学専攻修了。株式会社大林組東京本社入社、1988 年退社。1994 年 株式会社 UR リンケージに入社し、団地居住関係の調査研究や技術開発、技術紹介パンフレット等作成、フォーラム等の企画・運営、団地再生計画、コミュニティ再生などの業務に携わる。2020 年 3 月退社。2020 年 8 月からカフェ 06 推進委員会 コアメンバー・プロデューサー。星川工夢展 代表。		
お話の概要	<p>●カフェ 06 の概要等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UR 大島六丁目団地の集会室をカフェに改修し、カフェ 06 推進委員会が UR・団地自治会と管理協定を結び運営。①お茶や軽食が楽しめるカフェ、②子どもたちが遊べたり、ママが子どもと少し離れて自分の時間が持てるような場の提供、③地域の人や団体などの生きがいを応援、の 3 つが活動の柱。 <p>●カフェ 06 のプロデュースの概要等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客を高めるため、売りをつくる（美味しい食事、限定スペシャルメニュー等）、雰囲気づくりにこだわる（コーヒーカップ、食事の見せ方、インテリア等）、認知度を上げる（通信の発行、Facebook、紹介リーフレットの作成等）等を実施。 ・経済的自立に向けて、カフェの売上げに加え、スペースの貸出やセミナー&視察の開催等により収益を得ている。（但し、現状では家賃・光熱費は UR が負担。） ・地域との連携を深めるために、連合長会・社会福祉協議会の会合等の活用、アニバーサリーイベントを活用した地域団体等とのつながりづくりを展開。 <p>●カフェ 06 の運営を通じたコミュニティサロン立上げの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立上前後数年間のプロデューサーの配置、イニシャルコストの支援が課題。 		
意見交換 の概要	<p>●外国人居住者が多い地域だが参加はあるのか。</p> <p>⇒居住割合からすると少ないかもしれないが、中国人・インド人の方もカフェを利用している。また、アニバーサリーイベントではブースも出してくれている。</p> <p>●引きこもりの高齢者、障害者等の外に出てきてくれない方へのアプローチ方は。</p> <p>⇒こちらから積極的にアプローチはしていないが、高齢の引きこもりの方でふと立ち寄ったことをきっかけにリピーターになってくれている等の実態はある。</p> <p>●プロデューサーやコアメンバーは完全なボランティアなのか。</p> <p>⇒プロデューサーやコアメンバーも他のスタッフと同じ謝金額としている。</p> <p>●家賃・光熱費が無料でない場合の運営は難しいのか。</p> <p>⇒現状では、社協からの助成金を含め月 11 万しか利益がないので、家賃・光熱費免除でなければ成立は難しい。</p> <p>●現在は週 2 日開いているが、収益を増やすため日数を増やすことを考えているか。</p> <p>⇒日数を増やせば利益を上げられるが、平均年齢 76 歳のスタッフでは体力的に週 2 日が限界。60 代のもう少し若いスタッフが増えてもらえればと考えている。</p>		
記録者の ひとこと	<p>本事例のようなカフェを核とした交流の場は、高齢化が進む団地のコミュニティ活性化に向けて重要なファクターとなるので、団地全体の経営・再生事業の中で明確な位置づけをつくり、全体の中で事業成立させていく仕組みが必要であると感じた。</p> <p>《都市懇サロン運営部会 委員 森川 禎二郎》</p>		